

3.2.6 長周期 WG の開催

(1) 業務の内容

(a) 業務の目的

首都圏で長周期地震動が発生した場合、多大な被害の発生が想定される高層建物を対象にし、その耐震性能評価および被害軽減を目的として、学協会等との連携による研究推進と研究成果の共有を図る。

(b) 平成 21 年度業務目的

実験計画や結果の評価など当該研究に関する検討を行うため、研究機関及び業務協力者からなる WG を開催する。

(c) 担当者

所属機関	役職	氏名
独立行政法人防災科学技術研究所 兵庫耐震工学研究センター	主任研究員	長江 拓也
	企画室長	井上 貴仁
	主任研究員	梶原 浩一
	客員研究員	福山 國夫
	センター長	中島 正愛
東京理科大学	教授	北村 春幸
名古屋大学	教授	福和 伸夫
建築研究所	上席研究員	斉藤 大樹
京都大学防災研究所	准教授	日高 桃子
鹿島建設	上席研究員	田上 淳
大林組	主任研究員	佐野 剛志
竹中工務店	主任研究員	山本 雅史
清水建設	主任研究員	寺田 岳彦
大成建設	プロジェクト リーダー	木村 雄一

(2) 平成 21 年度の成果

(a) 業務の成果

研究機関及び業務協力者からなる WG を定期的に 4 回実施した。そこでは、耐震改修方法等の方針や詳細について討議し、その内容が実験に反映された。また、実験後には、結果と評価に関する研究発表会を開き、成果を共有した。

検討の詳細は、4.1.2「活動報告」に示す。

(b) 引用文献

なし

(c) 学会等発表実績

なし

(d) 特許出願，ソフトウェア開発，仕様・標準等の策定

1)特許出願

なし

2)ソフトウェア開発

なし

3) 仕様・標準等の策定

なし

(3) 平成 2 2 年度業務計画案

平成 23 年度に計画している実験計画書の作成や地震時室内状況・床応答シミュレータの検討、既実験結果の評価など当該研究に関する検討を行うため、研究機関及び業務協力者からなる WG を開催する。